

相馬地方で日本有数のエネルギー基地を目指すこと

未来そうま
牛渡秋夫議員



問 水素エネルギー事業の推進について問う。

答 地方創生事業の一つと位置づけ、ビジネスの創出につながるよう取り組んでいく。

世界は水素社会の実現に向けて急速に進んでいる。水素は将来的には再生可能エネルギーや未利用資源から製造されることが期待され、日本のエネルギーの多様化と低炭素化に貢献するものと考えられている。

水素エネルギー事業の積極的な推進によって、基幹産業の創出、市の5万人都市構想にもつながるものと考えているが、市長の所見を伺う。

の循環型地域社会づくりのための調査研究に取り組んできた。

今年度は、再生可能エネルギーを最大限活用し、蓄電池、水素製造、蓄熱未利用エネルギーの燃料化を組み合わせた持続性のある地産地消型のスマートコミュニティ構築のマスタープラン策定に取り組んだところである。

平成29年度以降は、地域エネルギーマネジメント事業、先進型太陽光発電事業、小売電気事業、公共施設防災対策事業、バイオ燃料製造事業、オープンイノベーション事業、以上の6つの事業

の実施を計画している。

市としては、水素エネルギー事業を地方創生事業の一つとして位置づけ、多様な再生可能エネルギーを最大限に活用する地産地消型のエネルギーマネジメント拠点を設けるとともに、先進的な水素研究施設の誘致に努め、ひいては関連するビジネスの創出につながるよう取り組んでまいりたいと考えている。



基幹交通網の早期復旧と整備促進に関する特別委員会

相馬福島道路の進捗状況を視察

基幹交通網の早期復旧と整備促進に関する特別委員会（波多野広文委員長）は4月18日、東北中央道・相馬福島道路（霊山道路）の整備について、進捗状況を視察しました。

東日本大震災からの迅速な復興・再生を推進するための「復興支援道路」として事業が推進され、物流、生活、観光、医療など多方面に効果が期待されています。

委員会では、常磐自動車道の4車線化や常磐線の復旧状況について、調査を行いました。また、基幹交通網の早期復旧、整備促進に向けて、国、JR東日本、NEXCO東日本などに要望活動を実施することも決定しました。



相馬方面から福島方面へと繋がる境ノ目トンネル（仮称）



月舘高架橋（仮称）の橋面上で担当者から事業概要の説明を受ける委員ら